

Challenge

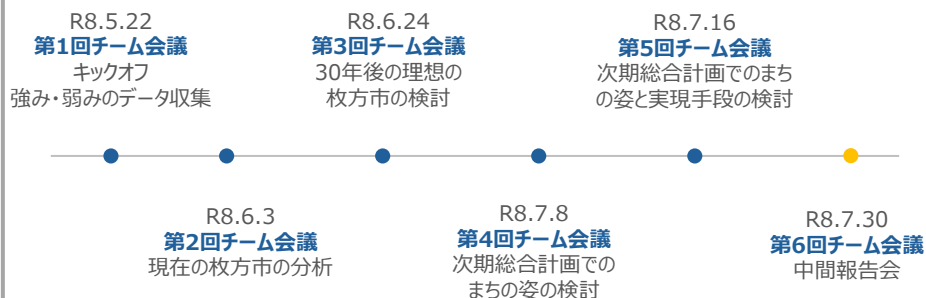
Vol.2

Hirakata City Project Team

プロジェクトチームの中間報告会を行いました！

プロジェクトチームでは、分野ごとに5班に分かれ、チーム会議や会議外での作業により、枚方市の強みや弱みの分析、各種アンケートや市民ワークショップの意見の分析、少子高齢化等が予想される30年後に枚方市がどのような理想のまちになっているかの検討等、次期総合計画での各分野でめざすまちづくりの検討を進めました。第1回から第5回までに各班が検討したまちづくりの内容を7月30日の中間報告会で各班が発表しました。各班の発表内容をAIが作成したグラフィックレコーディング（通称：グラレコ）で紹介します！

7月までの会議内容



各班の発表を通じて、新たな気づきを発見！
他班のアイデアに刺激を受け、
検討がさらに深まりました！

～プロジェクトチーム会議の様子～



重ねた対話が、まだ見ぬ未来の輪郭を描く

それぞれの班が思い描いた、未来のまちの姿。中間報告会では、これまでチーム員と対話を重ね、検討を重ねたアイデアを、自分たちの言葉で発表しました。異なる視点に触れ、問いかけや共感が生まれるたびに、未来の輪郭が少しずつ形になっていきます。ここで得た新たな気づきや想いをさらに深めながら、理想の枚方市を描いていきます。

各班のテーマ

A班	防災・インフラ
B班	医療・福祉・人権
C班	教育・子育て・文化・スポーツ
D班	観光・商工産業
E班	環境・自然

都市基盤の強靱化やデジタル技術によるインフラ管理・防犯の高度化を進め、
広域的な災害対応拠点を確保することで、
災害・犯罪から日常の安全・安心が守られるまち

① 都市基盤の強靱化

- ・地域緊急交通路予定路線の整備
- ・公共施設・設備の耐震化
- ・無電柱化
- ・市役所新庁舎



② デジタル技術によるインフラ管理・防犯の高度化

- ・AI防犯カメラ
- ・IoTセンサー
- ・ドローンパトロール等の防犯スマートインフラ
- ・デジタルの仮想都市モデルの活用
- ・B-DASH (下水道革新的技術実証事業)



③ 災害時対応の物資集積の 大規模拠点整備

- ・集約的な物資集積による広域対応の拠点が現状不足



次世代交通技術を活用可能な道路環境の整備や地域公共交通を維持することで、
誰もが快適に移動し、都市の活力につながるまち

① 次世代交通技術を活用可能な道路環境の整備

- ・自動運転の導入に向けた整備 (10年後では一部)
- ・狭路路については、次の段階として整備を準備
- ・MaaSについては、広域での動向を見つつ、実証への参画や受け入れ可能な環境整備を連携



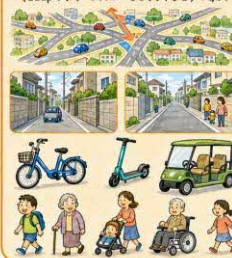
② 地域公共交通の維持

- ・バス運転手の確保
- ・代替交通手段の導入 (AIオンデマンド交通)



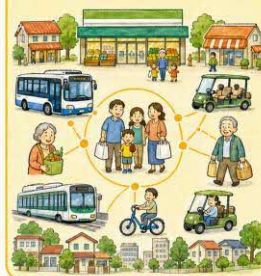
③ 誰もが快適に移動

- ・都市計画道路整備による交通分散
- ・狭路路の改善
- ・シェアサイクルや小型モビリティ等 (Luupやグリーンスローモビリティなどの導入)



④ 都市の活力につながるまち

- ・スーパーや小売店へアクセスしやすい移動の自由確保



その他

- ・ドローン輸送・移動スーパー (法整備必要)

拠点への都市機能集積と住環境の適正管理を進め、
地域資源を最大限に活かす都市計画を展開することで、
拠点と周辺地域が調和した快適で活力ある住環境が広がるまち

① 拠点への都市機能集積

- ・駅周辺の再整備・活性化、都市機能の集積



③ 地域資源を最大限に活かす都市計画

- ・景観の確保のためのハードとしての方向性
- ・遊休地の活用方策の一つとしてのポケットパーク、スポーツ施設
- ・機能を発揮できるような配置



② 住環境の適正管理

- ・居住誘導による住環境の形成
- ・空き家を含めた土地の適正利用
- ・小規模な空き地の民間での活用推進
- ・居住誘導による住環境の形成



④ 拠点と周辺地域が調和した快適で活力ある住環境が広がるまち

- ・拠点と周辺地域の各々の役割を適切に発揮
- ・良好な景観の維持・寛廣させない住環境・地域資源とのつながりの確保



デジタル技術を活用したスマートな防災体制のもと、あらゆる世代の
住民や民間企業との連携を深め、市民一人ひとりの主体的な参画を促すことで、
デジタルと人の絆で支え合いが持続する安心なまち

① デジタル技術を活用したスマートな 防災体制・あらゆる世代の住民や 民間企業との連携深化

- ・防災アプリ等での情報共有
- ・避難所運営のスマート化 (物資の管理把握、必要数量報告の迅速化)
- ・中期的な災害情報システムの見直し
- ・受動的でも仕切る緊急情報の伝達経路 (市公式LINE)



② 民間企業との連携深化

- ・緊急時の物流等における民間企業の助力を得る体制
- ・民間の大型配送拠点にからのさらなる協力体制
- ・デジタルの活用による災害時の安全な配送経路の確立・伝達



③ 市民一人ひとりの主体的な参画を促す

- ・防災への関心を持つための教育の場



心身ともに健康であるための本市独自の多角的な施策を活かしつつ、事業者との連携を推進することで、一人一人の健康意識を高め、いつまでも健やかに活き活きと(瑞々しく)活躍できるまち

① 多角的な施策

- ・5歳児健診
- ・企業対抗運動会
- ・くらわんか体操
- ・ひらかた食育カーニバル
- ・ひらかたキッチン
- ・健康サポート講演会
- ・検診動員(あたりまえ検診の動画放映)



② 事業者との連携

- ・ひらかたポイントの活用方法拡大
- ・ひらボ以外のインセンティブの増加
- ・移動型健診カーの導入検討



地域の医療機関との協力体制や支援内容の充実と強化を進め、どの地域でも平等に医療が受けられるまち

① 医療機関への協力体制の呼びかけ

- ・オンライン診療に自治体が医療機関へ補助
- ・休日・夜間診療時間の拡大
- ・訪問診療の拡充



② 支援内容の充実

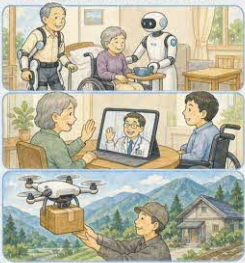
- ・予防接種の助成拡充
- ・医療機関までの移動手段の充実(乗り合いタクシー)



AIテクノロジーの整備をはじめとしたサポート体制の充実化を進めることにより、高齢者や障がい者などの安心・安全が確保され、健やかに社会参加できるまち

① AIテクノロジー

- ・介護ロボット
- ・オンライン診療
- ・ドローンを活用した遠隔地への薬の処方



② サポート体制の充実化

- ・福祉移送サービスの拡充と補助
- ・AIテクノロジーの整備と並行したAIの活用が難しい高齢者や障がい者などへのサポート



③ 社会参加

- ・高齢者や障害者ができるだけ不自由なく、就労や趣味など自分の思い描いた活動をするための市で提供するいろいろなサポートや取り組みの活用



安心の支援・サポート体制を整えながら、みんながあらひのまま平和に共生できるまち

① 安心の支援・サポート体制

- ・DV支援の拡充(一気通貫:相談開始から自立までサポート)
- ・多言語標記の拡充(地域に根差したところまで、ごみ捨て場など)



② みんな

LGBTQや外国籍の人や動物を含む



③ 平和

- ・世界平和
- ・史跡や平和を理解して自ら平和について発信や表現



④ 共生

- ・他人の価値観の認め合い



安心して子育てができ、地域と共に子育ての喜びを分かち合えるまち

① 子どもが安心して遊ぶことができる
公園や屋内施設といった環境整備
子どもが安心して楽しく遊べる遊び場の整備

② 子育て支援(金銭的支援や相談窓口など)の更なる充実

保育料の無償化など子育てに係る
金銭的負担を軽減

保育施設への送迎や職場に保育・
病児保育機能を持たせる等の子育て支援

保育・学童・出産育児支援の充実

共働き世帯やひとり親家庭、
障害のある子どもを持つ家庭も
安心して子育てできる仕組み



学びの土台を整備することにより、誰もが自分らしい『学び』をデザインできるまち

① 子どもたちが学ぶ環境の整備

- ・施設
- ・DX技術の活用
- ・学習支援
- ・放課後サポート
- ・教員の確保



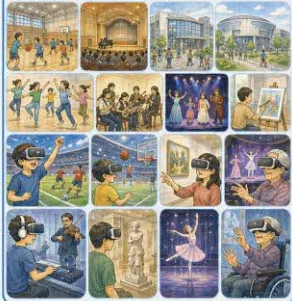
② 何歳になっても学び続けることができる環境づくり

- ・図書館
- ・生涯学習施設
- ・大学との連携
- ・資格取得支援

リアルに観て体験できる場を創出するとともに、
デジタル技術を活用することにより、誰でもスポーツ・芸術に触れられるまち

① リアルな体験施設とデジタル技術の融合

- ・既存施設の活用や新しい拠点の整備
- ・VR技術の活用による体験機会の拡大



② 誰でも体験できる環境の創出

- ・誰もが気軽に参加できる公園や体育館、ホール、
図書館、子どもの遊び場などの整備



③ 市民が気軽に参加できるイベントの充実

- ・イベントの企画・誘致
- ・開催しやすい仕組みづくり



都市農業の振興とデジタル技術の導入により、 安定した営農環境と次世代の担い手を育むまち

① 担い手確保

- ・大学・学生を「技術サポーター・実証パートナー」に位置づけ
- ・他府県や他産業で経営経験を持つ社会人を「アプリブレナー（農業起業家）」として誘致・育成



② スマート農業

- ・先端機器を地域シェアリング（サブスクリプション）により初期投資負担を極小化（アセットライト経営）



③ 流通・経営

- ・「協働集荷・共同配送×デジタル受発注」の整備



再投資の促進と産業基盤の強化により、 工業の持続的な発展を支えるまち

① 企業支援・再投資

- ・既存企業の建て替えを阻む「都市計画・建築規制の壁」を緩和（地区計画・特例運用）
- ・行政の手続き・制度のハードルを取り除くこと（ファストトラック化）で民間再投資を最大化



② 支援体制

- ・国・大阪府の豊富な補助金・優遇制度とのマッチングハブ



③ 人手不足対応

- ・市内に眠る「ミドルシニア・主婦層・第二新卒」などの潜在人材に着目
- ・製造現場の短時間シフト化（働き方の柔軟化）



創業支援の拡充とデジタル技術の浸透により、 多様な挑戦とワークライフバランスの両立を後押しできるまち

① ターゲット設定

- ・本市の主役である育児世代・シニア・会社員等の豊富な潜在人材に着目
- ・生活に密着した「スモールビジネス（身近な企業）」に特化



② 目指すポジション

- ・スモールビジネスに特化し、初期リスクを低減
- ・「関西で一番スモールビジネスを起こしやすいまち」という明確なポジションを確立



③ 創業環境・手法

- ・デジタルツールやクラウドツールの浸透を前提とした「低リスクな職住近接・在宅創業」を支援



日常を彩る賑わいと暮らしの魅力発信により、 心惹かれ選ばれるまち

① ターゲット設定

- ・オーバーツーリズムや一過性の集客を回避
- ・市民および近隣（30分圏内）住民を対象とした「マイクロツーリズム（身近な観光）」に完全転換
- ・持続可能なローカル経済の循環



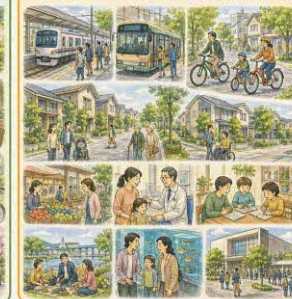
② 観光資源の扱い

- ・現在の観光名所を市民が毎週末繰り返し訪れたいくなる「質の高いサードプレイス（第3の居場所）」として整備



③ 事業の着地（目的）

- ・優れた利便性と良質な住環境
- ・身近な観光の楽しさ
- ・「住むならやっぱり枚方（シティブランディング・定住促進）」へ着地



地産地消による農地保全や里山資源の利活用で経済的・環境的循環を生み出し、
自然を資源として活かしながら、豊かな里山や生態系を未来へと
守り受け継ぐサステナブルなまち

① 担い手の確保

- ロボットなどでの全自動化による人手不足への対処や解消
- 自然を生かしたビジネス（農産物や生物を活用した商品化や、自然環境の観光資源化、空家となった古民家等の活用）を興すことでの担い手の確保



② 農地や里山を保つ営み

- 野生動物に関する知識や理解の深化
- 人と野生動物の共存、生態系の保全の意識啓発



市民参加のコミュニティ・ガーデン形成や環境学習による
緑に触れあう機会の創出により、みんなで豊かなグリーンインフラを
つくり出す、緑に囲まれた心地よいまち

① 身近な公園や緑地

- 市民参加・企業連携による緑がある環境の創出
- 遊休地を地域住民が活用した公園や緑地の増加



省エネの徹底やエネルギーの地産地消、資源循環を通じて、
快適・健康なエコライフを定着させ、
ゼロカーボンシティの実現に取り組む環境にやさしく過ごしやすいまち

① ゼロカーボンシティ

- 脱炭素住宅や脱炭素型モビリティの100%普及
- 再資源化可能な素材利用の100%徹底
- CO₂を排出しない廃棄物処理施設の構築
- 資源の処理、リサイクル技術の高度化
- 暑さに強いインフラ整備技術の進展



② 当事者意識の定着と環境づくり

- 「エコライフの定着（市民生活レベルでの普及や行動変容）」
- 市民への環境教育や導入促進の制度化
- 行政としての先端設備の率先導入

